

ウ 各学年の取組

(ア) 1年生の取組

入学して新しい環境での生活を始めた1年生。小学校で災害が起きた時の身を守る行動を具体的に考えることができるように、学習を進めてきた。

○ 学級活動「じしんからみをまもろう」

東日本大震災時の部屋の映像を見せ、地震が起きた時、何が危ないのかを話し合った。「落ちてくるもの」、「倒れてくるもの」、「動いてくるもの」が教室にもたくさんある。実際に危険と思われるものをペアで相談した後、危険な物に×印のカードを貼っていくと、教室は×印でいっぱいになった。



〈ペアで相談している様子〉

地震で身を守るためには、それらの物からできるだけ離れること、机の下に身を隠すこと、もし、身を隠す場所がない時は、ダンゴムシのポーズで、身を低くして頭を守ることを確認した。その後、席を離れて活動している時に、前触れなく緊急地震速報を流すと、児童は、すぐに机の下に入り、身を守る行動をとることができた。しかし、わざわざ本箱や棚の近くの自分の席に戻って机の下に入った児童もあり、そのような時は、机を危険物から離して避難したり、教師の机の下などに避難したりした方がよいことを確認した。

○ 生活科「がっこうたんけんパート3」

休み時間に予告なしの避難訓練を行った時、図書室にいた児童は不安になり、担任を探して教室に戻ってきた。地震はいつどこで起こるか分からない。教室以外のどの場所で地震に遭っても落ち着いて避難できるように、いろいろな場所での身の守り方を考えながら、学校探検を行った。「廊下は窓から離れてダンゴムシのポーズがいいよ。」「音楽室は、ピアノの下が安全だよ。」「トイレにいる時は、すぐにドアをあけておくといいね。」「図書室の机は、みんなが入れるよ。」など、児童は、学級活動で学習したことを生かしながら、考えることができていた。



〈図書室で避難している様子〉

○ 「防災ダック」ゲームを通して

日本損害防保険協会が企画した防災ダックのカードゲームを行った。このゲームは、災害からの身の守り方を体を動かし、声を出して遊びながら学ぶためのゲームである。「津波の時は?」「台風の時?」「火事の時?」避難のポーズをとりながら、ゲーム感覚で、身を守る「最初の一步(ファーストムーブ)」を練習することができた。隙間時間に何度か行うことで、いろいろな種類の災害からの身の守り方を覚えることができた。



〈防災ダックゲームの様子〉

(イ) 2年生の取組

2年生は、1年間の小学校生活を送る中で、地震と津波、不審者侵入時の避難訓練も経験している。今年度は、校舎に備えられた防火設備・道具の理解を促し、火災時の避難に主体的に取り組めるようにしたいと考えて以下の実践をした。

○ 帰りの会を利用して「消火器はどこにある」

火災の避難訓練の時に消防隊員の消火の実演を見た経験から、全員が消火器の役割を理解していた。だが、廊下に置かれた消火器を意識することは、ほとんどない。「廊下で見た気がする。」
「1階にはある。2階と3階は分からない。」と答えたことから消火器を探し、各階の廊下に複数の消火器があることを確認した。また、授業中の理科室を覗いたグループが「理科室の中にも消火器がありました。」と報告したので、理科室と調理室の消火器を全員で見に行った。こうして、火を使う学習をする教室にも消火器があることを確認した。

○ 学級活動「避難を助ける防火戸」

火災発生時に、火炎と煙の伝播を遅らせるための防火戸がある。この防火戸が閉まると、見慣れた廊下・階段が全く違って見える。非常時に慌てずに避難行動ができるように、防火戸とくぐり戸の学習をした。

初めに、火事の時の煙を吸うと、「咳き込んだりむせたりする、苦しくなる、病気になる、倒れる、死亡する。」ということを確認した。火も煙も怖いのである。さらに煙が充満すると周囲が見えにくくなることを写真で示した。その後、2年生教室から西玄関へ出る廊下の防火戸を閉め、くぐり戸の開け方と通り方を練習させた。くぐり戸は重いが、児童の力で十分に開けることができた。



〈くぐり戸を通っている様子〉

児童は、くぐり戸を一人ずつ通ることや、全員が通るには時間がかかること、足元に気を付けて下の枠にひっかからないようにすることを学んだ。

その後、手分けして2階と3階に行き防火戸を見付ける活動をした。教室では、防火戸が階段の近くにあることを確認し合ったほか、防火設備点検の人からの注意として、誤作動や故障の原因になるので、防火戸を触ったりたたいたりしないことを伝えると真剣に聞くことができた。また、防火戸が作動して、どこで閉まるのかを想像した児童は、「もし、バケツやダンボール箱があると、防火戸が閉まる時にじゃまになる。」と気づき、その発言から自分たちが防火戸のそばに物を置かないことが大切だと考えることができた。



〈校舎の防火戸を探している様子〉

○ 「防火戸を探そう」(事後指導と関連して)

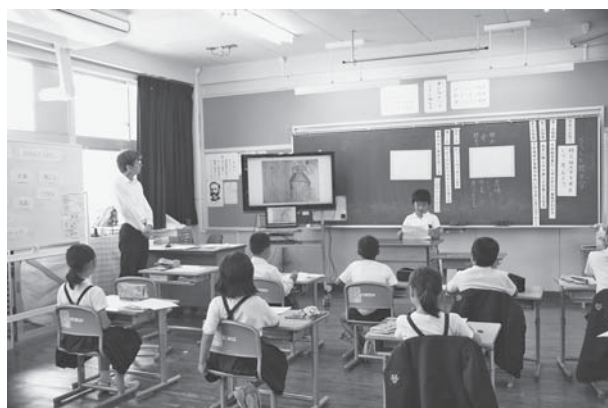
学級通信で、「避難を助ける防火戸」の学習の様子を保護者に知らせるとともに、防火戸のある建物・施設を見つけたら教えてくださいとお願いをした。すると、広島県尾道市の因島総合病院、尾道市の福屋、松山市の総合運動公園の体育館に防火戸があることを知らせてもらった。写真で紹介すると、学校以外の施設にも防火戸があることに関心をもつことができた。

(ウ) 3年生の取組

3年生は、国語科「くらしと絵文字」の授業において防災絵文字について考え、自分たちにできることは何かについて考える学習をした。

○ 防災絵文字の発表会

国語科で説明文「くらしと絵文字」について学習をした。絵文字の特長について学んだ後、絵文字についての説明する文章を書く単元である。自分が説明する絵文字については、自分が考えた防災絵文字について書いて発表することにした。これまでに学んできた防災に関する知識を生かして、身の回りにあったら便利だと思う絵文字を考え、クラスの友達に紹介した。津波に注意の絵文字、大雨と強い風に注意の絵文字、がけ崩れに気を付けよ



〈防災絵文字の発表会の様子〉

うの絵文字、消火器がここにありますが絵文字、救急箱のありかを示す絵文字など様々な災害に関する絵文字を考えることができた。いろいろな絵文字を考えることが楽しく、児童は意欲的に取り組んだ。先日行われた防災学習会で詳しく説明があったがけ崩れに関する絵文字も複数出てきた。防災について学んだことを生かすことができた。この学習の後、自分たちにできることは何かについても考えた。防災について学んだことをいろいろな人に知らせていきたいという児童や、もっと防災について学んでいきたいという児童がいた。その後、中学生と一っしょに自分の住んでいる地域の防災マップについて学び、気を付けてなければいけないところを確認した。防災絵文字の具体的な活用についての理解を深めることにつながった。また、参観日に行われた全校集会において、他学年の友達はもちろん、保護者や地域の方々にも防災絵文字と自分たちの考えを知らせ、広めていくことができた。

○ 教室環境整備

単発的に行われる防災学習では意欲が継続するかどうか課題となってくる。そこで、特別活動の時間に防災について学習したことを教室の背面掲示にした。

土砂災害、地震災害、豪雨災害について学んだことから考えたことを学級だよりとして保護者に伝えるとともに教室背面掲示をすることでこれからの学習に意識がつながるようにした。

他校の防災教育についての取組を紹介した新聞記事も掲示した。



〈教室背面掲示〉

緊急持ち出し袋についても、中身について学んだ後、目につく場所に配置して、児童の防災についての意識を高め、意欲を継続することができた。

(エ) 4年生の取組

4年生は、社会科「くらしを守る」の授業を中心に、災害から命やくらしを守るために、地域の人々や地方自治体がどのような対策をしているのか、自分たちにできることは何かについて学習を進めてきた。

○ 町の危機管理室による出前授業

上島町役場総務課の危機管理室から3人のゲストティーチャーを招いて出前授業を行った。まず、学校裏と保健センター横の防災倉庫の中を見学した。児童は防災倉庫に保管されている物は非常食だけではなく、発電機や日用品、簡易トイレなどもあることや換気扇のない倉庫には食品品は入れることができないという話を聞き、驚いていた。その後、防災倉庫の中にある段ボールベッドを実際に組立てた。小学生でも簡単に作れ、体の不自由な人にとって、床



〈防災倉庫の見学の様子〉

に寝るより、高さがあるベッドの方が寝起きが楽にできるということを体感した。その後、教室で、自然災害から私たちの生活や命を守る地方自治体の対策や事業についての説明を聞いた。防災計画、防災マップ、避難所運営マニュアルなど、資料を見せてもらいながら公助の取組への理解を深めた。児童は、昨年度の西日本豪雨での上島町の断水の際には、この防災計画に沿って上島町が県や国と連携して自分たちに飲料水が提供されていたことを知り、公助の有り難さを感じた。また、地域の防災訓練への参加の意義や家庭でできる災害の備え、まずは自分の命を守る行動をとることの大切さについて学習した。

○ 親子で考えるクロスロードゲーム

社会科の学習「くらしを守る」の学習では、地域ふれあい参観日に、災害の場面でどのような行動をすればよいかを考える二者択一のクロスロードゲームを行い、親子で防災学習を行った。

特に親子で意見が分かれた問題は、「あなたは、海の近くに住んでいます。自分以外の家族は、近くのスーパーに買い物に行っており、もうすぐ帰ると今連絡がありました。その時、大きな地震が起きました。津波がくるかもしれません。あなたは、どちらの行動をとりますか。」①すぐに高台に避難する。②家族が帰るまで待つ。だった。この問題のキーポイントは、「今連絡があり、もうすぐ帰ってくる。」ということである。ここで、児童や保護者は待つか避難するかで迷い、意見が分かれた。話し合いの中で、「すぐに避難したいが、今電話したばかりなので、もしかしたら子どもが待っているかもしれないので家に見に帰る。」という保護者の意見や「店までの海沿いの道のを歩きながら避難する。」という児童もいた。授業の最後に、災害時に親子で災害の時にどうすればよいか、日頃から家族で話し合っておく必要があるということを確認した。



〈地域ふれあい参観日の授業の様子〉